

## ライフイノベーションによる健康大国戦略

鈴木 寛

参議院議員



2010年6月18日に新成長戦略が閣議決定されましたが、その中で、「ライフイノベーションによる健康大国戦略」が7つの戦略分野の一つとして位置づけられました。

このライフイノベーションのなかでも、特に、医療分野におけるイノベーション、つまり(1)医薬品・医療機器や再生医療をはじめとする最先端の医療技術の実用化等を促進すること、(2)国際競争力の高い関連産業を育成すること、そして、(3)その成果を国民の医療・健康水準の向上へ反映すること、は、上記新成長戦略の大きな柱となります。

その後、2010年11月8日に開催された「新成長戦略実現会議」では、「内閣官房長官を議長とする『医療イノベーション会議』を設置すること」が決定され、その後、同月30日に開催された「第1回医療イノベーション会議」では、我が国で早期に最先端の医療技術を実用化していくために、(1)医薬品、医療機器、再生医療などの分野で、産学官の連携による資源の戦略的集中投入を行うこと、(2)研究から実用化までを一貫して推進するための横断的・共通的な基盤を構築する等の取組みが不可欠であること、(3)このような取組みは(数十年後も見据えた)中長期的視点に立って強力かつ持続的・自立的に推進することが必要であるということ意見が一致いたしました。

これを受けて、これまで主要な役割を担ってきた文科省・厚労省・経産省・総務省の取組みの縦割りを排除し、また産学官が一体となったオールジャパン体制により、研究開発の基礎から実用化まで切れ目のない研究開発費の投入や研究基盤の整備に取り組みを行うために、内閣官房のもとに、「医療イノベーション推進室」が、2011年1月7日付けで設置されました。

現在、「医療イノベーション推進室」の室長代行には、日本再生医療学会理事長の岡野光東京女子医大教授にご就任いただいております。また、同推進室の再生医療部門の責任者(同室次長)には、第11回日本再生医療学会総会会長の澤芳樹大阪大学教授にご就任いただいております。

医療イノベーション推進室発足後、約1年数カ月が経過しましたが、この間、岡野先生、澤先生らのお力添えをいただき、再生医療領域におきましては、現状の問題点や課題について詳細な調査・分析をいただくとともに、また、再生医療の早期実現化・産業化に向け、新たな枠組みの整備や審査制度の改革など様々な政策についてご提言をいただいております。

この頂いたご提言を実際に政策として実現し、そして、国際競争力を持つ日本発の再生医療を生み出し、そしてその成果を確実に医療現場に届けるために、私どもも精一杯力を尽くして参りたいと思っております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 【略歴】

1964年、兵庫県生まれ。灘中学・高校を経て、東京大学法学部公法学科卒業。大学卒業後の1986年、通商産業省入省。シドニー大学特別研究員、山口県工業振興課長。通産省情報処理振興課総括課長補佐。1998年通産省電子政策課総括課長補佐。中央大学総合政策学部兼任講師、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)環境情報学部助教授。2001年参議院議員通常選挙東京選挙区で当選。2007年参議院議員通常選挙で再選。同年9月の臨時国会より倫理・選挙特別委員会委員長に就任。2009年9月、鳩山由紀夫内閣で文部科学副大臣に就任し、2010年6月菅直人内閣、2010年9月第二次菅直人内閣で再任。2011年9月野田佳彦内閣の発足に伴い、民主党政策調査会副会長、民主党文部科学部門会議座長、民主党憲法調査会事務局長、人材科学技術イノベーションPT事務局長、参議院文教科学委員会筆頭理事、憲法審査会幹事を拝命。スポーツ振興議員連盟幹事長、音楽議連幹事長、民主党大学東京・学長(東京都連の政治スクール)、中央大学大学院公共政策研究科客員教授も務める。

## 著書

「熟議で日本の教育を変える」

「中央省庁の政策形成過程」

「ボランティア経済の誕生」

「コンクリートから子どもたちへ」

「コミュニティ・スクール構想」

「子育てキャッチボール ボールひとつから始まる教育再生」

「研究開発力強化法」

「教育をめぐる虚構と真実」

「情報編集力ーネット社会を生き抜くチカラ」

「IT2001 なにが問題か」

「先生復活 につぼんの先生を再生する」

「土曜学校へようこそ」

「中学改造 学校には何ができて、何ができないのか」

など多数。